

重要海域抽出作業についての日本海洋学会における意見聴取について

重要海域の抽出にあたっては、多くの分野の専門家、地域で生物多様性保全活動を行っている主体、その他有識者から、具体的利用データに関する情報及びその他解析方法などに関する意見を収集することが重要と考えている。

そこで、海洋学、水産学、生態学など関連する分野の学会などにおいて、重要海域抽出作業の途中経過などを紹介し、広く意見を求める機会を作る。

1. 日本海洋学会春季大会における発表と情報収集

日本海洋学会では、年 2 回、会員の研究発表の場として、大会を開催している。2013 年は 3 月 21 日（木）～25 日（月）まで東京海洋大学品川キャンパスにおいて、春季大会が行われる予定であり、これに合わせて、重要海域抽出作業の紹介及び意見収集を行う。

2. 体制

表題：ナイトセッション「生物多様性の保全上重要な海域の抽出について」

主催：日本海洋学会

共催：環境省

コンビナー： 桜井泰憲（北海道大学大学院水産科学研究院）

中田薫（独立行政法人水産総合研究センター）

尼子直輝（環境省自然環境局自然環境計画課）

開催日時：平成 25 年 3 月 24 日（日）17:00～19:00 予定

場所：第 2 会場 講義棟 22 番教室

参加人員：約 50 名を予定

3. シンポジウム開催趣旨（学会への申請書より引用）

海洋の生物多様性の保全について国際的な関心が高まる中、環境省では生物多様性の観点から重要な海域を抽出する作業を平成 23 年度から平成 25 年度にかけて行っている。生物多様性条約第 9 回締約国会議で採択された EBSA（生態学的・生物学的に重要な海域）の基準を参考とした 8 つの抽出基準に従い、現在、各抽出基準に対応する生物分布データ、物理環境データ等を特定し、抽出基準別の情報図を作成したところである。平成 25 年度には、これらの情報図を統合して重要海域図を作成する予定である。本シンポジウムでは、この作業の紹介を行うとともに、抽出基準別情報図に利用できるデータ等に関し、参加者からの助言を頂きたい。